

妊婦から見た助産外来の評価

Evaluation of the midwifery practice by the pregnant women

1) 信州大学医学部附属病院西 4 階病棟 2) 信州大学医学部保健学科
内川千賀¹⁾ 徳武千足²⁾ 芳賀亜紀子²⁾ 近藤里栄²⁾ 藤井恵美子¹⁾
曾根原由紀¹⁾ 赤堀千文¹⁾ 吉沢奈緒子¹⁾ 上條美香¹⁾ 上條陽子¹⁾

〈要旨〉本研究の目的は、妊婦からの助産外来に対する評価を検討し、今後の妊婦健診の方向性を明らかにするものである。

当院産科では、妊婦の多様化するニーズに対応し、妊娠・出産に対して安心かつ主体的に取り組めるよう助産外来を行っている。今回、妊婦健診に関する調査を行った。その結果、助産外来・医師外来の満足度に差はみられなかった。検査技師が行う超音波実施については、約 6 割が良いと回答し、今後、医師・助産師・臨床検査技師が専門性を高め、連携を強化していく必要性が示唆された。

キーワード：妊婦健診，助産外来，安心感

I. はじめに

産科外来では、平成20年に助産師が超音波検査と保健指導を行う助産外来を開設した。更に、従来に加えて平成23年5月からは、臨床検査技師(以下、検査技師とする)が超音波検査を行い、助産師が保健指導を行う助産外来を導入した。今回、助産外来に対する妊婦の評価から充実した健診に向け検討した。

II. 方法

1. 調査対象

妊婦健診を受診中の初診以外、妊娠16週以降の妊婦450名(医師外来150名・助産外来300名)

2. 調査方法

健診終了後、本研究の主旨を文書と口頭で説明し自記式質問紙配布、郵送にて回収。

3. 調査内容

対象の背景、満足度(VASスケール使用)、検査技師の超音波検査実施への意見、全妊娠期間の妊婦健診担当の希望、妊婦健診への要望・意見など。

4. 調査期間

平成23年11月から平成24年3月。

5. 統計処理

単純集計および、t検定。(有意水準： $p < 0.05$)

III. 倫理的配慮

文書と口頭で、研究の主旨、匿名性の保持、情報の守秘義務、自由意思による参加、学会等での発表等を説明し、質問紙への回答で同意とみなした。尚、信州大学医学部医倫理委員会の審査を経て実施した。

IV. 結果

質問紙配布450名中、212名から回答が得られた。

『医師外来群』として、医師が主で行った妊婦健診群66人(有効回答率44.0%)、『助産外来群』として、助産師が超音波検査と保健指導を行った群114人(48.7%)、『検査技師群』として、検査技師が超音波検査を行い、助産師が保健指導を行った群32人(48.7%)について比較検討を行った。

1. 対象の背景

平均年齢は、医師外来群 33.5 ± 4.6 歳、助産外来群 32.7 ± 4.9 歳、検査技師群 32.1 ± 4.6 歳であった。初経産はほぼ半数であり、妊娠週数は平均32.0週であった。

診察時間は、各群で大きな差はみられず、診察待ち時間は、医師外来群 31.7 ± 22.5 分、助産外来群 26.8 ± 22.1 分、検査技師群 25.9 ± 19.2 分であり、助産外来時のほうがやや短くなっていた。

2. 妊婦健診の満足度

医師外来群84.7%、助産外来群88.6%、検査

技師群88.4%であった。(図1)

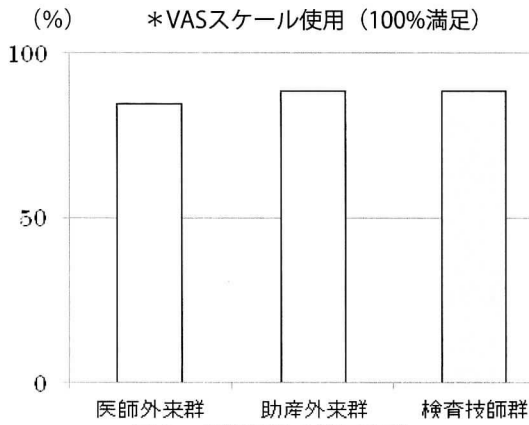


図1 妊婦健診の満足度①

助産外来開設当初からみると、助産外来の満足度は87%~89%を維持している。(図2)

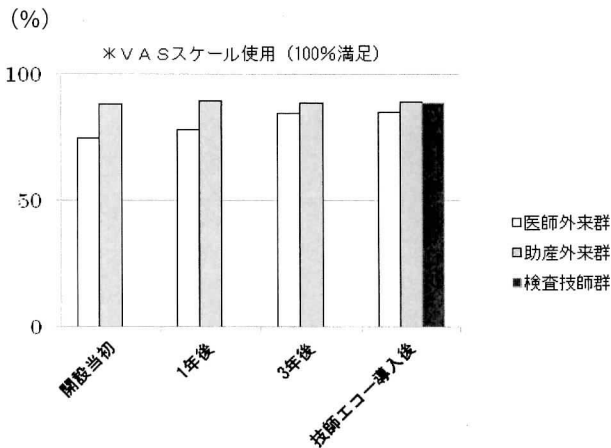


図1 妊婦健診の満足度②

3. 検査技師による超音波検査実施への意見

全体では62.8%が良いと回答し、医師外来群53.1%、助産外来群65.5%、検査技師群では90.6%が良いと回答した。(図3) 実際に検査技師の超音波検査を受けた妊婦が良い評価をしていた。

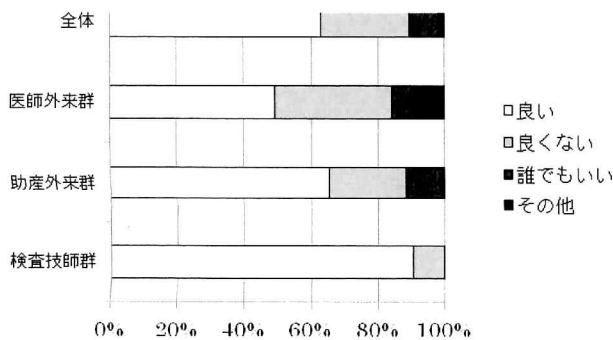


図3 検査技師が行う超音波実施への意見 (複数回答)

4. 超音波検査についての自由記載

「産科医不足・負担の軽減という意味でも、患者の待ち時間の軽減という意味でも有効だと感じた。しっかりチェックしてくれれば誰が検査してもかまわない。」「知識や経験のある技師であれば問題ない。求めるのは安心感や正確さである。」「女性の検査技師が丁寧に説明しながら超音波検査をしてくれ、とても良かった。」など肯定的な意見が多くあった一方で、「医師が行ったほうが安心。」という意見もあった。

5. 全妊娠期間の健診担当の希望

「医師と助産師同回数」が46.7%と最も多く、次いで、「医師が多い方がいい」26.4%、「どちらでもいい」16.5%という結果であった。(図4)

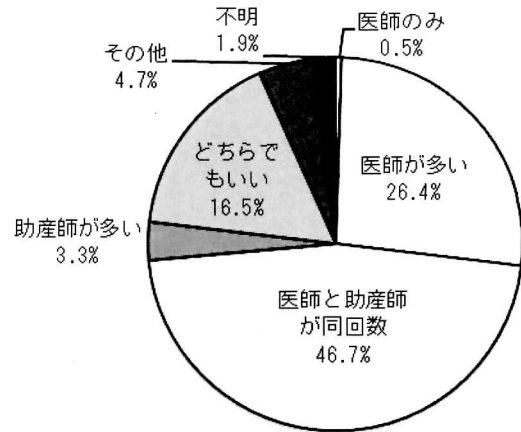


図4 全妊娠期間の健診担当の希望

6. 妊婦健診への意見・要望

「医師には赤ちゃんに病気や異常がないか診てもらいたいし、助産師には妊娠中や育児などの不安や悩みを聞いてもらいたいので両方の診察が必要だと思う。」「医師の健診が多い方が安心できるが、助産師の方が不安なことも話しやすい。」「助産外来はゆっくり時間をとってもらえ、育児の話もできて診察とは違った安心感がある。」「経過が順調であれば、待ち時間などを考えると診察は半分ずつでも良い。」等の意見があった。

V. 考察

診察待ち時間は、医師外来時より助産外来時のほうがやや短い傾向にあり、妊婦の苦痛を少しでも軽減することにつながっていると考えられる。妊婦健診の満足度は、医師外来群、助産外来群、検査技師群で大きな差はみられなかった事か

ら、健診担当により満足度は変化していないと考える。

検査技師による超音波実施への意見では、実際に検査技師の超音波検査を受けた妊婦が良い評価をしていることが伺え、待ち時間の短縮や丁寧な診察が満足につながっていると考える。超音波検査に関しては、妊婦は“正確さや安心感”を求めており、それが満たされれば誰が行っても構わないという妊婦がいる一方で、医師が行う超音波検査に安心感を得ている妊婦もいると考える。

全妊娠期間の健診担当の希望では、「医師と助産師同回数」が最も多かったことから、妊婦は医師・助産師それぞれに求める内容があることが伺える。

妊婦健診への意見・要望では、医師には胎児や自分の身体に異常がないか等の診断を、助産師には妊娠中や育児についての不安の軽減を求める声が聞かれ、助産外来を受診し、話をすることが安心感につながっていることが考えられる。妊婦が助産外来を受診する意味は、妊娠が順調に経過しているという身体的側面からのチェックや診断という意味の健診ではなく、精神的側面への影響をもたらしていた。それは、妊婦の話を聞き、一緒に考える身近な存在と感じられる助産師との相互的なコミュニケーションが取れる雰囲気であることによる¹⁾という先行研究に一致する。

今後は、助産師が専門性を高め、他職種と連

携し妊娠期から関わることでより良い出産・子育てにつなげていく必要がある。

VI. まとめ

1. 妊婦健診の満足度は、医師外来群、助産外来群、検査技師群で大きな差はみられなかった。
2. 検査技師が行う超音波検査実施について、全体では約6割が良いと回答した。
3. 約半数の妊婦が全妊娠期間の健診について、医師と助産師同回数の診察を希望していた。

以上より、様々な背景を持つ妊婦のニーズに対応し、今後、妊婦健診をより充実したものにしていくために、助産師・医師・検査技師それぞれの専門性を発揮し、連携を強化していく必要性があることが示唆された。

引用文献

- 1) 高木静代, 小林康江, 小室真祐子, 他: 妊婦の視点からみた助産外来を受診することの意味. 母性衛生, 53 (1), 242-248, 2012.

参考文献

- 1) 谷口友美, 秋葉秀美, 乾桃子: 当院における助産外来の現状と課題. 助産師, 60 (3) 20-23, 2006.
- 2) 平野秀人: 妊婦健康診査パーフェクトマニュアル, 10 - 13, メディカ出版, 2010.